皆様の住まいづくりに役立つ情報をお届け！

木の家住む住む

No.209
2023年10月

発行 ： 株式会社山田工務店

社長の一棟入魂!!!

秋冷さわやかな季節になって参りました。
日頃は大変お世話になりありがとうございます。
昨日のＮＨＫスペシャルで「老いる日本の住まい第１回、空き家１０００万戸の衝撃」が放映されました。職業上、空き家問題はある程度把握しておりますが、深刻で複雑な課題をどう解決していくかを改めて知らされました。放映された内容を箇条書きでまとめてみました。
＜問題点＞・２０３０年、5軒に1軒は空き家になる・人口が増えていた時代、高度成長期に大量に建てられた家が空き家化している・相続、権利関係がより複雑になっている・思い出やためらいがあり、なかなか売ることができない・親の家を相続しても活用できないことが多い・物の整理ができていない・親の家の立地が通勤上不便である・遺品整理や解体に多額の費用がかかるが子供にお金がかかるので空き家にお金をかけることができない・空き家バンクに登録してもなかなか話が進まない・自治体の権限が強化され管理不全空き家の固定資産税が6倍になる
＜課題解決の一例＞・親が元気なうちに将来この家をどうするかを話し合っておく・空き家問題に取り組んでいる不動産会社や建設会社、司法書士等に相談する・空き家をＤＩＹ型賃貸として活用してもらう（借主側がＤＩＹでリフォームし住む）・血縁関係に縛られず借りてくれる人にバトンタッチする・国庫帰属制度の活用・建物の状態が良い時に活用を考える（老朽化してくると手遅れになる場合が多い）等々です。当番組とは関係ありませんが、大阪経済法科大学の米山教授は、次のように提言されています
「特定空き家（倒壊など著しく危険となる恐れ等）の状態になった時に、最終的に必要になるのは解体だ。現在の問題は、所有者がこの責任を果たさないため、所有者が負担すべき費用を納税者全体で負担する状況になっているということ。その解決策として、所有者が将来必要になる管理費相当分を支払うこと（つまりマイナスの価格）で行政（国・自治体）に引き渡すという発想だ。」なかなか厳しい意見です。
弊社も、空き家課題解決に積極的に取り組み、利活用やまちづくりについてもっともっと学び、社会のお役に立てるよう頑張って参ります。

山田文夫

たかが工務店、されど工務店

文：山田加容子

二兎追うものは一兎も得ず②

長男が産まれて間もないころ、現社長が1級建築士を目指し、夜間の学校に通っていました。
新生児の内は、生活リズムも決まってないし私の気晴らしのため、送迎をかってでたのですが、だんだん疲れと苛立ちがたまり、腑に落ちないまま「仕事、子育て、家事も…私ばっかり?」と悶々としておりました。社長自身も二兎追うものは…と、家庭と仕事の両立は出来なかったのだと、今となってはそう思っています。
現在は、この時代と 180 度違い、育児も家事も夫婦で分担なんて考えられず「男は仕事女は家庭」の風潮！なんてナンセンスだったのだろう。結婚して環境が変わり、初めての育児、会社の事…色んなストレスで私はどんどん不満がたまり、心底で煮えたぎったマグマは爆発寸前でした。「くそぉぉおおおおおおお!!!!」これが当時の正直な心の声なのでした。

暮らしのコラム 秋を楽しもう

秋は体調を崩しやすい季節です。昼と夜で気温の寒暖差が激しく、夜間は冷え込む日も増えてくるので気づかぬうちに体の調子を崩してしまうことがあります。その一方で、夏に比べて気温が落ち着いてくるので、スポーツの秋や食欲の秋など、外に出て活動するには良い季節でもあります。
「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」など、秋は何かと風物詩が多い季節です。そうした風物詩に合わせて、健康的な習慣を身に付けられれば単なる体調管理以上のメリットを得ることができます。
夏や冬といった存在感の大きい季節に比べて、秋は短くすぐさま過ぎ去ってしまう季節でもあります。小さい秋を感じながら、積極的に活動して体調管理に努めましょう。